

授業科目名	生活支援技術（Ⅱ）	講師名	村上 洋次
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	60 時間
<b>概要</b>			
利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。			
<b>目標</b>			
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得し統合する。また、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション・授業の進め方・演習時の心得 2. 環境の整備 寝具の衛生管理・意義と目的・介護の基本 3. リネン類のたたみ方 4. ベッドメイキング 2人方法 5. シーツ交換・ベッドメイキング 1人方法 6. ベッドメイキング 1人方法（計測） 7. <u>自立に向けた移動の介護</u> 、意義と目的、介護の基本、移動に関するアセスメント・移動の介助方法 8. 【実技試験】 ベッドメイキング 1人方法 9. 体位変換、安楽な体位の保持、移動介助、安楽な体位の保持・床からの立ち上がり 10. 身体拘束と良肢位について 11. 移動介助の演習 12. 車いすの介助・歩行介助・補助具の活用 13. <u>自立に向けた排泄介護</u> 、意義と目的・介護の基本、オムツ体験について 14. 【実技試験】 移譲介助 15. 排泄に関するアセスメント		16. オムツ交（尿便器、Pトイレ）の介助 17. 【小テスト】 姿勢と体位・車いす、事故の予防と事故時の対応 18. <u>自立に向けた食事の介護</u> 、意義と目的・介護の基本 19. <u>自立に向けた食事の介護</u> 、食事に関するアセスメント 20. 事故の予防と事故時の対応 21. 安全な食事介助 22. 自立に向けた口腔のケア 23. 状態別口腔ケア 24. <u>自立に向けた身支度の介護</u> 、意義と目的、介護の基本 25. 身支度に関するアセスメント 26. 着脱介助の演習（座位での方法） 27. 着脱介助の演習（臥床時の方法） 28. 着脱介助と移動介助 29. 【実技試験】 着脱介助と移動介助 30. 試験	
<b>教科書</b>	最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（中央法規）		
<b>授業の形態</b>	講義、演習		
<b>方 法</b>	教科書を基にした講義、演習を行う		
<b>評価方法</b>	実技試験 40%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 40%		
<b>その他の事項</b>	〔実務経験のある教員による授業科目〕 介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。		
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b>	自立にむけた身じたくの介護／自立に向けた移動の介護 ／自立に向けた食事の介護／自立に向けた排泄の介護／福祉用具の意義と活用		

授業科目名	生活支援技術（Ⅲ）	講師名	村上 洋次
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
<p>利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。</p>			
<b>目標</b>			
<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得し統合する。また、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。</p>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>・意義と目的 介護の基本・オムツ体験演習</li> <li>2. 入浴・清潔保持に関するアセスメント</li> <li>3. 演習 リフト浴</li> <li>4. 演習 特浴</li> <li>5. 演習 全身清拭</li> <li>6. 演習 部分浴・爪の手入れ</li> <li>7. 【実技試験の演習】ベッドからポータブルトイレへの介助</li> <li>8. <u>休息・睡眠の介護</u>・意義と目的 介護の基本</li> <li>9. 【実技試験】ベッドからポータブルトイレへの介助①</li> <li>10. 【実技試験】ベッドからポータブルトイレへの介助①</li> <li>11. <u>自立に向けた居住環境の整備</u>・意義と目的 介護の基本</li> <li>12. 【グループワーク】居住環境について</li> <li>13. 事例をもとにした介護方法を考える</li> <li>14. 【グループワーク・発表】事例をもとにした介護方法</li> <li>15. 試験</li> </ol>			
<b>教科書</b>	最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（中央法規）		
<b>授業の形態</b>	講義、演習		
<b>方 法</b>	教科書を基にした講義、演習を行う		
<b>評価方法</b>	実技試験 40%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 40%		
<b>その他の事項</b>	[実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。		
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b>	自立にむけた入浴・清潔保持の介護／休息・睡眠の介護 ／自立に向けた居住環境の整備		

<b>授業科目名</b>	生活支援技術 (IV)	<b>講師名</b>	麻生 理津子
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b>			
<p>1. 高次脳機能障害、難病の医学的・心理的側面の基礎的な知識を理解する。</p> <p>2. 高次脳機能障害、難病のある人の生活上の影響、自立を支援するための生活支援を理解する。</p>			
<b>目標</b>			
<p>1. 高次脳機能障害、難病の医学的・心理的特性が理解できる</p> <p>2. 高次脳機能障害、難病に応じた生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）が理解できる</p>			
<b>内容</b>			
<p>1. 高次脳機能障害（1）</p> <p>2. 高次脳機能障害（2）</p> <p>3. 高次脳機能障害の人への支援（1） （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）</p> <p>4. 高次脳機能障害の人への支援（2） （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）</p> <p>5. 高次脳機能障害の人への支援（3） （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）</p> <p>6. 全介助を要する人への介護</p> <p>7. 難病による障がいと支援</p> <p>8. 難病の人への介護（1）— 筋萎縮性側索硬化症（ALS） （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）</p> <p>9. 難病の人への介護（2）— パーキンソン病 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）</p> <p>10. 難病の人への介護（3）— 悪性関節リウマチ （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）</p> <p>11. 難病の人への介護（4）— 筋ジストロフィー （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）</p> <p>12. 模擬問題（1）</p> <p>13. 模擬問題（2）</p> <p>14. 模擬問題（1）（2）の解答と解説</p> <p>15. 後期試験</p>			
<b>教科書</b>	『生活支援技術Ⅲ』最新 介護福祉士養成講座8（中央法規出版）		
<b>授業の形態／方法</b>	講義・演習 教科書と資料、VTRを併用。		
<b>評価方法</b>	筆記試験70%、模擬問題および授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	[実務経験のある教員による授業科目]介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員 または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。		
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b>	自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護／福祉用具の意義と活用		

<b>授業科目名</b>	生活支援技術 (VI)	<b>講師名</b>	麻生 理津子
<b>実施年次 ／時期</b>	2年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b>			
<p>1. 内部障害の定義、分類、症状について理解する。</p> <p>2. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害のある人の生活上の影響、自立を支援するための生活支援を理解する。</p>			
<b>目標</b>			
<p>1. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害の医学的・心理的特性が理解できる</p> <p>2. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害に応じた生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）が理解できる</p>			
<b>内容</b>			
<p>1. 内部障害の基礎的理解</p> <p>2. 心臓機能障害のある人の医学的・心理的理解</p> <p>3. 心臓機能障害のある人の介護 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>4. 呼吸機能障害のある人の医学的・心理的理解</p> <p>5. 呼吸機能障害のある人の介護 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>6. 腎臓機能障害のある人の医学的・心理的理解</p> <p>7. 腎臓機能障害のある人の介護 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>8. 膀胱・直腸機能障害のある人の医学的・心理的理解</p> <p>9. 膀胱・直腸機能障害のある人の介護 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>10. 小腸機能障害のある人の医学的・心理的理解、小腸機能障害のある人の介護 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>11. 肝臓機能障害のある人の医学的・心理的理解、肝臓機能障害のある人の介護 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>12. 模擬問題（1）</p> <p>13. 模擬問題（1）の解答と解説</p> <p>14. 模擬問題（2）、解答と解説</p> <p>15. 後期試験</p>			
<b>教科書</b> 『生活支援技術Ⅲ』最新 介護福祉士養成講座8（中央法規出版）			
<b>授業の形態／方法</b> 講義／教科書と資料を併用。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 70%、模擬問題および授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b> [実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。			
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b> 自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護			

<b>授業科目名</b>	認知症の理解（Ⅰ）	<b>講師名</b>	麻生 理津子
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 前期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症を取り巻く社会的環境について理解する</li> <li>2. 認知症の基本障害に随伴して生じる行動と心理状態（BPSD）について理解する。</li> <li>3. <u>認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</u>について理解する</li> </ol>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>認知症を取り巻く状況</u>を理解できる</li> <li>2. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>ができる</li> <li>3. <u>認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</u>について理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（1）</li> <li>2. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（2）</li> <li>3. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（3）</li> <li>4. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（4）</li> <li>5. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（5）</li> <li>6. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（6）</li> <li>7. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（7）</li> <li>8. <u>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</u>（8）</li> </ol> <p><u>認知症を取り巻く状況、認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 小テスト</li> <li>10. 小テストの解答と解説</li> <li>11. 認知症の原因疾患（1）</li> <li>12. 認知症の原因疾患（2）</li> <li>13. 認知症の原因疾患（3）</li> <li>14. 認知症の原因疾患（4）</li> <li>15. 前期試験</li> </ol>			
<b>教科書</b>	『認知症の理解』最新 介護福祉士養成講座 1 3（中央法規出版）		
<b>授業の形態</b>	講義		
<b>／方法</b>	／教科書と資料を併用。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 50%、小テストおよび授業参加度（態度など）50%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	<p>[実務経験のある教員による授業科目]</p> <p>介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、認知症についての講義を行う。</p>		
<b>介護福祉士教育に含むべき事項</b>	<p>認知症を取り巻く状況／認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解</p> <p>／認知症に伴う生活への影響と認知症ケア</p>		